

事業の名称等
2023 年度もりの学舎ようちえん



取組の内容

1 森の危険な生きものを紹介するなど、自然に親しんでもらうところからスタート
(5月)

2 生きものに触れる、森にある物を使った工作、森のめぐみの試食などにより、四季を通じた自然体験を行う
(7月～1月)

3 まとめ
(3月)

■2023 年度もりの学舎ようちえん

- ・2016年度から4歳以上の未就学児向けにもりの学舎で実施している事業。
- ・もりの学舎の環境を活かして、森の案内人「インタープリター」とともに、大人と子どもと一緒に自然や生きものとふれあうことができる、全6回のプログラムである。




ねらい
四季を通じて自然を体感し、親しんでもらう。
自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ(きっかけ)とする。


工夫
「いろいろみつけ」
…ハチに遭遇したときの対処方法を「ハチさんが飛んできた!」という遊びを通して楽しく練習。モールで作った人形の友達「もりんちゅ」と一緒に森を散歩しながら様々な自然を発見し、触ったり、においを嗅いだりしながら、森を体感する。
♥ **本物体験** ♥ **ゲーム化**


「いきものみつけ」等
…皆と協力してバッタを集める「追い込み漁」やクワガタなどが採れる昆虫トラップなどにより、実際に生きものを捕まえながら、生きものの見つけ方や道具の使い方を学ぶ。捕まえた生き物の絵を描かせ、形や模様の違いなどをじっくりと観察。
♥ **本物体験** ♥ **驚き・感動**

「春みつけ」
…桜の枝を煮出して色が出る様子を観察し、風呂敷を染める。まだ寒い森の中に出かけ、小さな草花やカエルの卵・オタマジャクシなど、春を感じさせる自然を探し、季節の変化を体感する。自ら率先して生き物を探しだすようになった子どもの様子を見守る。
♥ **本物体験** ♥ **見守り**

学習者の状況
自然体験をほとんどしたことがない。
保護者が子どもに自然体験をさせたくても、やり方が分からない方が多い。

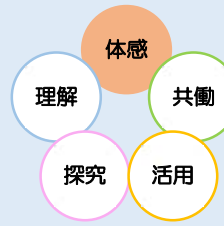
学習者の反応
【保護者アンケート抜粋】
「もりんちゅと一緒に散歩し、いつもと視線が変わっていました」
「葉っぱの形や手触り、においなど、普段は気にしないことに意識を向けることができた。」


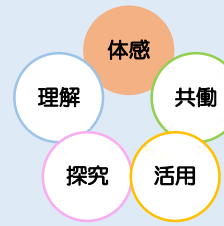
【保護者アンケート抜粋】
「初めてバードコールを作りましたが本人も大喜びでした」
「あみを上手く使って、生き物を見つけることができ、驚いた」



【保護者アンケート抜粋】
「子供たちの目が輝く瞬間が、大人も見ていると楽しくなりました」
「カエルの卵と生まれたばかりのオタマジャクシを見て、触れることができ、感動しました」


学習者の変容
【保護者アンケート抜粋(半年後アンケート)】
・日陰は涼しい、空がきれい、星を見たい、これはクマゼミかななど、自然に対する発言や質問が増えた。
・街中の葉っぱの形を見て、その特徴など述べるようになり、木の実や枝などを使って遊ぶようになった。
・「もりの学舎ようちえんでやったね、見たね」と生活の中で思い出し、植物や虫を見つけるようになった。
・前より虫に触れるようになり、虫取りが大好きになった。図鑑も開くようになり自然遊びが大好きになった。
(子どもの行動や発言についてわかるほどの変化を約66%の保護者が感じていた。)

成果指標
四季を通じて自然を体感し、親しむことができたか。
自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ(きっかけ)ができたか。

学習の効果&主に育まれる力
森で安全に遊ぶために危険なことを学び、形、色、手触り、におい、音など様々な自然の要素を発見し味わうことができた。


生き物に実際に触れ、五感で観察し、自然を十分楽しんだ。森の命の循環に関心を持ち、森を元気にしたいと自然に心を寄せることができた。


自ら積極的に自然とふれあい、発見する様子がみられた。日常生活の中にもりの学舎での活動が残っていることを感じられた。


成果と課題
【成果】
・四季を通じ、工夫を凝らした自然体験の場を提供することで、自然に親しんでもらうことができた。
・本事業参加後、子どもの自然体験の回数の増加や継続が見られた。
・自然に関する子どもの行動や発言に変化が表れ、また、保護者自身も子どもと一緒に自然の大切さについて考えるきっかけとなったと推測できる。
【課題】
・子どもと保護者の双方に対し、プログラム終了後も、家庭や地域で自然体験を継続してもらえよう促していく必要がある。

事業の名称等	ねらい	学習者の状況	成果指標
<p>2024 年度プラザ環境学習講座</p>  <p>取組の内容</p> <p>1 導入 いま地球上でどんな問題が起きているのか、また、何が原因なのかについて伝える。</p> <p>2 展開 簡単な実験や工作などを行い、体験を通して環境問題についてより分かりやすく伝える。</p> <p>3 ふりかえり 学んだことをふりかえり、普段の生活の中で自分にできることを考え、発表し、共有する。</p>	<p>工夫</p> <p>現実に起きている問題をイメージしやすくするため、写真や映像を使って説明。 身近で考えられる問いかけ（例「朝起きてから今の時間までに何に水を使ったか？」など）やクイズを交えながら、環境問題は身近な問題であることを説明。</p> <p>♡ 見守り ♡ ゆさぶり</p> <p>環境問題への関心をより高めるため、普段体験できないような内容の実験や工作など、印象に残る体験を提供。 見たり、聴いたり、触ったり、感じたりして体感することで、驚きや発見を生み、環境問題のしくみ（水がなぜ汚れるのか）等をより分かりやすく、自分事として捉えられるようサポート。</p> <p>♡ 驚き・感動 ♡ 本物体験</p> <p>身近に多くのエコアクションがあることに気づき、行動する意欲につなげるため、講座で学び、体験したことを振り返り、「わたしたちにできることは何かな？」と問いかけて発言を促し、皆で共有。 家庭や地域へ環境を守る行動「エコアクション」が広まるよう、最後に、「帰ったら、家族や友達に今日学んだことを話してね」と呼びかけ。</p> <p>♡ 共感・納得 ♡ 成果実感</p>	<p>学習者の反応</p> <p>「SDGs について詳しく知り、自分たちにどんなことができるのかを考えるきっかけとなった。」 「町づくりの観点から SDGs について考えることができた。」 「身近なテーマで興味がもてた。」</p> <p>「実践的な内容だったので、SDGs の目標について自分の生活と結びつけることが出来た。」 「知識としては知っていたが、実際に実験して水がきれいになることが分かってよかった。」</p> <p>「普段の行動より SDGs を意識した行動の変化があった」 「水道の水をこまめに止めたり、教室移動のときには必ず、扇風機や電気を消すなどするようになった。」 「SDGs により興味をもち、見たり聞いたりしたりして学んできたことを、学校での学習に生かそうとする姿がある。」</p>	<p>学習の効果&主に育まれる力</p> <p>環境問題が身近な問題であること、世界中で様々な環境問題が起きており、多くの人や生きものが困っていることを実感しながら、自分たちの生活との関係に思いを巡らすことができた。</p>  <p>体感 理解 共働 探究 活用</p> <p>体感することで、好奇心を高め、さらに、こうしたらどうだろう、もっと知りたいという探究心が高まった。</p>  <p>体感 理解 共働 探究 活用</p> <p>自分にできることは何かを考えて気づくことができた。 他の人の意見を聞くことで、自分では気づかなかった、環境を守るためにできることがたくさんあることに気づくことができた。 学んだことを話すことで家庭や学校、地域でのエコアクションを広めるきっかけとなった。</p>  <p>体感 理解 共働 探究 活用</p>

■2024 年度プラザ環境学習講座

・あいち環境学習プラザにおいて、主に小学生向けに、地球温暖化、生物多様性、水やごみなどの環境問題について、実験や工作を交えた体験型の学習講座を実施。



学習者の変容	成果と課題
<p>【児童へのアンケート結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素をできるだけ出さないような生活の仕方はあるのかなものがあるのか考えて見ようと思うようになった。 <p>【依頼者（教師等）へのアンケート結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみをすてない。海をよごさないようにするという言葉を聞くようになった。 ・節水や節電を意識する児童がでてきた。 ・教室の電気を消すなど身近なことから取り組むことができるようになった。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題は身近な問題であることを理解してもらい、自分たちにできることを考え、行動に移す意欲を育むことができた。 ・夏休み講座では自然や地球温暖化など、多岐にわたる分野を取り上げ、各分野への理解を深めてもらうことができた。 ・講座の内容を適宜見直し更新することで、学習者の反応やアンケート結果、社会情勢の変化等を講座に反映させることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も講座の内容について社会情勢の変化等に合わせ、更新をしていく必要がある。

事業の名称等

2024 年度あいちの未来クリエイト部

あいちの未来クリエイト部



取組の内容

1 キックオフミーティングで活動のオリエンテーションを行い、今後に資する講義を受講後、活動内容を検討（6月）

2 専門家の支援を受けてフィールド調査やデータ分析等の調査・研究を実施（6月～11月）

3 調査研究発表会（中間発表会）を実施（11月）

ねらい

- ・ 高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育む。
- ・ 高校生が仲間とともに自分たちで考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育む。

工夫

- ・ アドバイザーや講師から、伝えたいことを分かりやすく他者に伝えるコツや話し合いのコツについて講義を受け、活動開始の準備をサポート。
- ・ 質疑応答の時間を設けて発言を求めることで、積極的な参加を促進。
共感・納得
- ・ ファシリテーターがサポートしつつ、高校生中心で今後の活動内容を検討。
見守り

- ・ 高校生が主体的に調査・研究を行えるよう、高校ごとにテーマに沿った専門家が必要に応じて助言。
共感・納得
本物体験
驚き・感動

- ・ 調査・研究を振り返り、活動内容の理解を深めるため、成果を披露する調査研究発表会を実施。
- ・ 調査研究発表会に過去の参加校も出席し、研究発表や交流の機会を提供。
成果実感

学習者の状況

- ・ 環境への興味や活動レベルは様々である。
- ・ どのように調査に取り組めばよいのか分からない。
- ・ 顧問の指導に従い、活動に対して受け身の態度の生徒が多い。

学習者の反応

- ・ 最初は何をするか不安だったが、講義を受けて今後の活動のポイントが分かった！
- ・ どのような内容でこれから調査・研究を進めていこうかな？
- ・ 課題を見つけてモチベーションアップ！



- ・ 調査・研究を通じて、自分たちが取り組んでいる物事に対する関心を高められた！

- ・ 自分たちで動くのが基本で、教員が持ちえない知識を補ってもらうという体制がちょうどよい！



- ・ 研究してきたことを言葉にしてまとめ、お客さんに伝えることができた！

- ・ 他のチームの発表や質問によって改善できる場所が見つかった！



成果指標

- ・ 高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育むことができたか。
- ・ 高校生が仲間とともに自分たちで考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育むことができたか。

学習の効果&主に育まれる力

- ・ 今後の自分たちの活動の進め方を具体的にイメージしやすくなった。
理解 **体感** **共働** **探究** **活用**
- ・ 自分の考えや疑問を発言する機会が積極性を育んだ。
- ・ 調査・研究の内容や方向性を自分たちで決定することで、興味関心を高めた。

- ・ 調査・研究の体験から、自ら課題を感じ、学ぶことができた。
理解 **体感** **共働** **探究** **活用**

- ・ 専門家からアドバイスをもらえるという貴重な体験を通して、自信がついた。

- ・ 発表に向けて、調査・研究の結果をまとめ、意見や質問をもらうことで、新たな気づきや課題を見つけることができた。
理解 **体感** **共働** **探究** **活用**

4 調査・研究の成果を基に、誰に何を伝えたいか話し合い、意見をまとめた環境学習教材を作成し、実演（11月～2月）

・調査・研究で得た知識を基に、伝える対象・内容を意識して教材の作成を進められるよう、ファシリテーターが支援。

♡ 見守り

・作成した教材を体験した周囲の人から、感想や改善点などをフィードバック。

♡ 本物体験

・ゼロから新しいものを作ったり、考えたりするのはとても難しかった！

・すごく大変だったが、みんなにゲームを体験してもらって喜んでくれたので嬉しかった！



・仲間とのディスカッションを行いながら、調査・研究の成果を教材という形にできた。

・自ら考えた教材を活用し、周囲に学びを広げることができた。



5 活動報告会を実施（3月）

・調査研究成果とそれを基にした教材を発表し、実際に教材を体験。

・大学生やあいち eco ティーチャーとの交流会を行い、世代間の交流の場を創出。

♡ 成果実感

・他のチームの発表が面白くて、次の課題やこれからの実験について考えることができた！

・自分たちの教材を発表した時の反応が、世代ごとに違っていて考えさせられた！



・一年間の活動を振り返り、参加者全体で成果を共有できた。

・異なる世代の意見に触れ、視野を広げることができた。



■2024年度あいちの未来クリエイト部

高校生が、専門家の支援を受けて地域の環境問題に関する調査・研究を行い、その結果を基に環境学習教材を作成するとともに、その教材を活用し、普及啓発する。



学習者の変容

【高校生アンケート抜粋】

- ・自分から進んで発表を行うことが多くなった。
- ・考え方が柔軟になった。
- ・意見を出したり、みんなで行動して何かを作ることができるようになった。
- ・一年を通じて何かに取り組むことは初めてで、忍耐や発想の出し方が分かった気がする。

【顧問アンケート抜粋】

- ・生徒たちが主体的にやれるようになった。
- ・地域に目を向けられるようになった。
- ・やりきるといことが、小さな成功体験として、いい経験になっていると思う。
- ・研究テーマの理解から、地域のつながりにつなげられた。

成果と課題

【成果】

- ・活動の中で課題を見出し、それを解決するための調査・研究を検討して実践することにより、課題発見能力や解決能力が育まれた。
- ・自分の考えを積極的に述べ、仲間と協力しながら取り組むことができるようになり、主体性や協調性の向上につながった。
- ・アンケート結果から、専門家から支援を受けられることに対する期待が高かったため、専門家と対面で話す機会が増えるよう配慮した。

【課題】

- ・調査研究発表会や活動報告会での発表について準備不足を感じている生徒がいたため、余裕を持って発表準備に取り組めるよう進捗管理等のサポートに留意する。

事業の名称等

2024 年度
かがやけ☆あいちサスティナ研究所







取組の内容

1 開所式で、学生、パートナー企業等との顔合わせ、活動や課題の説明等を実施（6月）

2 環境問題やSDGs、課題解決に関する基礎講座を受講（7月）

3 研究所活動として、企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッション、チームミーティングを実施（7月～12月）

ねらい

- 持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それらを活用する能力を育む。
- 参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促す。

工夫

○愛知県知事の激励により士気を高めるとともに、学生、パートナー企業、ファシリテーターとの顔合わせ、活動や課題の説明等を行い、研究所活動を円滑に開始できるような機会を提供。

見通しOK

○今後の環境課題研究を行うに際し必要な知識や理解を深めるため、SDGs や課題解決の考え方の参考となる講座を実施。

○昨年度の修了生から経験談や心構えを聞くことで、全体の活動のイメージをサポート。

共感・納得
ゆさぶり

<課題研究>

○企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッションにファシリテーターを交えることで、学生のインプット及びアウトプットが大きくなるよう橋渡し。

本物体験 **驚き・感動** **見守り**

<チームミーティング>

○解決策を作り上げるためにチームミーティングを実施。適切なタイミングでファシリテーターが助言を行うことで、学生の考えをうまく引き出し、議論が円滑に進むよう支援。

学習者の状況

○これまでに習得してきた知識やスキルを社会でどのように活用していくか、まだ具体的なイメージがわいていない様子である。

学習者の反応

○最初は不安だったが、学生同士で交流を行うことで、モチベーションの上昇や関係構築につながった！



○環境やSDGsに関する知識が深まった！



○現場に行くと、企業が実際にやっている取組を体感できる！



○チームでミーティングを行い、解決策に向けた議論を深めていった。時間が足りない！



成果指標

- 持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それらを活用する能力を育むことができたか。
- 参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促すことができたか。

学習の効果&主に育まれる力

○全体のスケジュールを理解し、期間内にやるべきことを順序立てて具体的にイメージできた。

理解 **体感** **共働** **探究** **活用**

○これから解決策を検討していくために必要な知識やスキルを習得した。

○さらに必要なことについては自ら学習するなど、主体性を育んだ。

理解 **体感** **共働** **探究** **活用**

○実際に現地を調査し、企業担当者との議論することで、課題の意味を深く理解し、課題の解決がどのように持続可能な社会の実現につながるかに気づいた。

○チームミーティングを重ねることで、解決策に向けた議論を深めると同時に、様々な視点で物事を考える力が育まれた。

理解 **体感** **共働** **探究** **活用**

<p>4 成果発表会本番に向け、中間発表会を開催（10月）</p>	<p>○成果発表会に向けたプレゼンテーション練習を実施し、出席者からのフィードバックを踏まえ、研究成果のブラッシュアップ等を促進。</p> <p>♡ 共感・納得 ♡ ゆさぶり</p>	<p>○中間発表会是他チームからの意見やプレゼンテーションの方法など、成果発表会に向けてとても参考になる！</p> 	<p>○他者の意見により、新たな課題に気付くことができた。また、相手にわかりやすく伝える能力が育まれた。</p> 
<p>5 成果発表会・修了式で、研究所活動の成果である解決策を提案（12月）</p>	<p>○提案した解決策をパートナー企業が評価。</p> <p>♡ 成果実感</p> <p>○審査員の審査に加え、来場者の投票も踏まえて最優秀賞・優秀賞を選定することにより、来場者に伝わりやすいプレゼンテーションを促進。</p>	<p>○チームみんなで考えたアイデアや発表の工夫がパートナー企業や来場者に伝わるといいな！</p>  <p>○大勢の前での発表は緊張したが、今まで取り組んできた成果を練習したとおり発表できた！</p>	<p>○企業からの評価や審査員からの講評を受け、これまでの活動を振り返ることで、課題解決に必要なスキルや他者への伝え方の改善点を見つけることができた。</p> 
<p>6 県内の大学で出張成果発表を実施（12月）</p>	<p>○学生自身の知識の習得や理解を増進するとともに、これまでの研究成果を広く発信。</p> <p>♡ 共感・納得 ♡ 成果実感</p>	<p>○ともに行動する仲間を増やしたい！</p>  	<p>○研究成果を広く発信することで、自身の活動の成果を実感し、継続的なエコアクションの実施につながった。</p> 

■2024年度かがやけ☆あいちサステイナ研究所

パートナー企業から提示された環境課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを踏まえ、解決策を研究する。解決策を企業側に提案し、活動の成果を広くPRする。



学習者の変容

【学生へのアンケート結果より】

- 異なる価値観を持った人同士でコミュニケーションをとることができたことが自分の成長につながったのではないかと感じている。ファシリテーターの方や企業含め、同世代の人以外と意見を交わす良い機会を得た。
- 環境問題について知ることができ、個人としてできることと企業として取り組めることの違いについて深く考えることができてとてもよかった。様々な視点から物事を考える力が身についたようにも感じる。

【パートナー企業へのアンケート結果より】

- 参加された学生同士でお互いぶつかり合いながらも最終的に一つの発表物にまとめられたという点は、普段なかなか経験できない貴重な機会になったのではないと思うし、「人づくりプロジェクト」という側面においては良かったと感じている。

【ファシリテーターへのアンケート結果より】

- 成果発表会では、チームが1つとなって自信を持って発表してくれる姿に感激し、学生の成長としては大変良かったことだと思っている。若者の育成には大変素晴らしいプログラムだと思う。

成果と課題

【成果】

- 企業から提示された課題の解決策を研究し、提案することで、知識やスキルを習得するだけでなく、活用する能力が育まれた。
- 企業によっては提案された解決策を採用し、実施する見込みである。
- 学生の柔軟な発想や考え方を取り入れることができ、本業とのシナジーにもなる。
- 前年度（2023年度）の課題である「学生が課題解決に向けた活動を実施したり、チーム間での交流・意見交換を行ったりするための機会をより充実させることで、熟度の高い提案を行えるようサポートしていく必要がある。」に対応するため、「SDGs AICHI EXPO 2024」の県ブースにおいて、学生が課題解決に向けた活動を実施するための拠点を設置した。

【課題】

- 引き続き、学生が課題解決に向けた活動を実施したり、チーム間での交流・意見交換を行ったりするための機会をより充実させることで、熟度の高い提案を行えるようサポートしていく必要がある。

事業の名称等

2024 年度環境学習コーディネート事業



ねらい

環境学習を受けたい方と、環境学習を提供できる方の橋渡しを行うことで、県民、事業者、NPO、行政、学校等の様々な主体が各々のノウハウ等を活かしあい、環境学習の幅を広げ、より効果的な環境学習ができるようにする。

学習者（依頼者）の状況

環境学習ってどうやってやるのか分からない。
講師は誰に頼めばいいのだろう。
どうやれば効果的な環境学習ができるのだろう。

成果指標

県民、事業者、NPO、行政、学校等の様々な主体が各々のノウハウ等を活かしあい、環境学習の幅を広げ、より効果的な環境学習につなげることができたか。

取組の内容


1 環境学習に関する相談・講師の依頼

2 依頼内容に応じ、講師や施設等を提案


3 学習日程や学校等の授業の目的に合わせたプログラム等の事前調整

（コーディネーターの）工夫


学校、行政、事業者など依頼者の主体に合わせて、あいち環境学習プラザに相談するメリットを紹介したチラシを作成し、Web ページ等で周知。
過去のコーディネート事例を Web ページに掲載。
あいち環境学習プラザの来所者（社会見学申込者等）へ、コーディネート事業の説明を実施。

 **共感・納得**

依頼の目的や学習の目標、授業内容の希望等を詳細にヒアリングすることにより、ニーズに合った講師や施設等を複数提案。
コーディネート終了後も依頼者と講師が関係性を保てるよう、コーディネーターが同席して打合せを行うことで早期に信頼関係が構築できるよう配慮。

 **共感・納得**

依頼者と講師の双方と連絡を密にし、信頼関係を構築することで、講師が安心して授業に臨めるよう調整。
依頼者に対して、一過性の授業で終わらないように、事前・事後の学習の実施や、他の教科、総合学習との連携について提案。
講師が依頼者の求める内容をプログラムに取り入れることができるように、依頼者からヒアリングした内容を講師に伝えるとともに、より良い授業となるよう、伝えてほしい事や工夫する点も講師に助言。

 **見通しOK**

学習者（依頼者・講師）の反応


（依頼者）
「学校施設の脱炭素化について考える環境講座の講師を紹介してほしい。」
「モノづくりを代表する愛知県において、子どもたちが資源循環の必要性を考えるような講義やワークショップを提案してほしい。」
「食品ロスが及ぼす影響や食品ロスを出さない生活習慣を学ぶ環境講座の講師を紹介してほしい。」

（依頼者の反応）
「学校の CO2 排出量、光熱費を知れて良かった。」
「クイズ等で参加者を楽しませる工夫があり良かった。」


（依頼者の反応）
「こちらの都合にあわせて、柔軟にご対応いただいた。わかりやすさや親しみやすさ、飽きさせないための工夫がされ良かった。」
（講師の反応）
「依頼者との事前調整で、依頼側の意欲を感じ、やりがいがあった。」「事前打ち合わせや当日のサポート等調整がこまかくできた。」

学習の効果&主に育まれる力（取組の効果）


どのような講師を紹介してもらえるのか、どのような授業が作れるのか、何をしてもらえるのかイメージしやすくなり、コーディネーターへの相談がしやすくなった。



コーディネーターの持つ幅広いネットワークから学習内容に適した外部講師や活動場所を選定することができた。



事前・事後の学習の実施や他の教科との連携を図ることで、より効果的な環境学習とすることができた。
相談者の希望する学習内容と外部講師の持つプログラムの調整ができた。
事前に依頼者の希望を聞くことで、講師が安心して授業に臨むことができた。



4 講師を派遣し、環境学習を実施 ふり返り、改善提案の実施

コーディネーターが学習当日に立ち会い、講師と共にふり返りを行い、事後学習の提案やプログラム改善の提案を実施。事後学習として、どうしたら学習したことを生活の中で行動につなげられるのか、グループワーク等で話し合う時間を設けるなどの提案を実施。

📍 驚き・感動

📍 本物体験

📍 成果実感

(依頼者の反応)
「受講者に当事者意識を持たせることができ、学んだことを実践したいといった前向きな声を聞くことができ良かった。」

(講師の反応)
「クイズやワークシートなどを講座内に組み込み、有意義な学びの時間のお手伝いできました。」

振り返りにより、事後学習やプログラム改善の提案をすることで、より効果的な環境学習につなげることができた。



■2024 年度環境学習コーディネート事業

- ・あいち環境学習プラザに窓口を設け、環境学習の連携・協働に関する相談業務や連携・協働先の紹介・マッチング等のコーディネート業務を実施。



学習者の変容

【依頼者へのアンケート結果より】

- ・地球温暖化について深く考え、日々の生活で何ができるか考えるようになった。
- ・ゼロカーボンシティの実現に向けて、事業者や市民が環境問題について関心を持ち、自分事として取り組むよう、周知啓発のほかに参加型の事業を企画・実施していきたいと考えるようになった。

【講師へのアンケート結果より】

- ・行政と市民が課題を共有し、食品ロス削減に向け、連携して取り組むきっかけの講座となれば良いと思うようになった。

成果と課題

【成果】

- ・受講者から当事者意識を持つことができた、学んだことを実践したいといった前向きな声が多く聞かれるとともに、依頼者自身からも講座を参考にしたい、環境学習を今後も企画したいという声が多く見られた。

【課題】

- ・授業に該当すると考えられる SDG s の項目について、講師は依頼者に比べて問題をより広く捉えており、依頼者と講師が同じ認識に立って講座を実施できるようにするために、事前打合せの際に専門家としての講師の意見を積極的に引き出し、共有しておくことが望ましいと考えられる。
- ・かつては小中学校からの依頼が多くを占めていたが、市町村からの依頼が増え、講座内容は幅広い分野を求められている。県環境局での様々な環境学習プログラムと連携しながら、学習の実施を希望あるいは検討している主体に向けて、本制度の情報発信を今後も継続的に行っていることが求められる。